



活発に意見を交わす参加者たち。春日井市松新町のホテルプラザ勝川で

## 春日井「全国トンネルサミット」

### 市民団体など

鉄道廃線跡を観光資源として活用する市民団体などが一堂に会する「全国トンネルサミット」が、春日井市松

新町のホテルプラザ勝川であった。団体メンバーら百八十人が参加し、行政との役割分担や次世代への継承といった課題について意見交換した。

廃線跡を持つ地方自治体などでつくる「全国近代化遺産活用連絡

協議会」東海・北陸ブロックの主催。地元のアシカトンネル群保存再生委員会を筆頭に全国五団体が運営の収支まで公開し、活発な議論を展開した。

行政との連携では「土幌線ひがし大雪アトチ橋友の会」（北海道）の角田久和事務局長が「資金調達にふるさと納税を取り入れていく」と報告。観光客を受け入れるための安全確保に関しては、「碓氷峠鉄道遺産群を愛する会」（群馬県）

の萩原豊彦アドバイザーが「町や土木学会と一緒に調査した」と説明した。

メンバーが高齢化していることから、「若者の関心を引き付けるにはビジネスモデルをつくる必要がある」「孫の世代をファンにする長期ビジョンを」「地元の大学の学生を巻き込んで」といったアイデアが聴講者から出た。

会場では、地元の中部の学生たちが研究の一環でサミットの撮影に取り組んだ。

(谷知佳)